

今日も一日おつかれさま

高浜富士夫

真つ暗な部屋の中
僕は目をつむり
今日一日を振り返る

今日もまた 一日が終わった
一生懸命働き 多くの人に会い
いろいろと経験できたよ
新発見に 感動もあったよ
とても 充実した一日を ありがとう

今日も一日 おつかれさま
そしてまた 明日のために
おやすみなさい

わたしの
目 おやすみなさい
耳 おやすみなさい
口 おやすみなさい
両手 おやすみなさい
両足 おやすみなさい
からだ おやすみなさい
わたしのこころ おやすみなさい
みんな みんな おやすみなさい
今日も一日 おつかれさま

平々凡々

高浜富士夫

平々凡々

実に単調 単純で 心和む言葉か
何と 愛おしい響きか

そして

正に自分にふさわしい

幼少の頃から

ごくごく普通に

地味に生きている

大人になっても 相も変わらず

その習慣は同じである

朝起きて 顔を洗い 飯を食う

いつものように

仕事着に着替え 家を出る

一日中 机上のパソコンと向かい合い

決まりきった仕事の繰り返し

夕刻になれば

車に乗り 我が家を目指す

家に戻れば 近くの公園へ

愛犬の散歩が毎日の日課

日々 同じ繰り返し

何の変化もない

まことに平々凡々な人生である

派手な生き方は

自分には似合わない

凡人は凡人なりに

幸せである

そう 平々凡々

平々凡々

満天の星

高浜富士夫

ある晴天の日 何気なく 夜空を見上げた

すると 南の空にキラキラと輝く いくつもの星
その中に ひととき目立つ星が

ひとつ ふたつ そして みつつ 浮かんでいる

これが満天の星か これが宇宙なのか
場所によっては

天の川や流れ星も見えるという

地上にはない これもまた 絶景か！

その絶景を今 私はひとり占めしている

しばらくの間

真っ暗な闇の中に浮かぶ 星たちに見惚れていた

人間なんて ちっぽけな存在なんだな

我々が住んでいる この地球

あの宇宙から見れば ただの豆粒にすぎない

その豆粒の中で 人間は何をしているんだ

ああでもない こうでもない

醜い争いを繰り返している

誰がお山の大将であろうと

そんなこと どうでもいいじゃないか

今 遠い星で まさに地球を見ながら

同じことを考えている

誰かがいるかもしれない